

令和4年第1回能勢町総合教育会議 会議録

1. 開会日時及び場所

日時：令和4年3月28日（月）午後1時00分

場所：能勢町役場本館第1会議室

2. 出席者

町長 上森 一成      教育長 加堂 恵二      教育長職務代理者 市村 依子  
委員 中澤 安弘      委員 畠中 勝身      委員 的場 麻子

3. 事務局職員出席者

総務部長兼総務課長 藤原 伸祐      秘書人事担当係長 濱 和也

4. その他出席職員

教育委員会次長 寺内 啓二      生涯学習課長 松田 正弘  
学校教育総務課参事 川本 重樹

5. 議事の次第

藤原部長

ただいまから、令和4年第1回能勢町総合教育会議を開催いたします。  
教育委員の皆様には年度末、公私何かとお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。

この会議は、能勢町総合教育会議設置規則第3条の規定に基づき招集させていただきましたものです。内容につきましては、今後の教育の羅針盤となります第3次能勢町教育大綱（案）につきまして、ご協議をいただくこととしております。それでは、能勢町総合教育会議設置要綱第2条第3項の規定に基づきまして議事進行は議長であります上森町長にお願いします。

上森町長

年度末のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

さて、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が行われています。1日も早い終息を願うとともに、武力による領土拡大や主権の侵害に抗議の意思を示すものです。

本日は、第3次教育大綱につきましてご意見をいただく予定です。本来であれば1年前にお示しすべきところでしたが、第6次総合計画に整合させることとしたため、この時期になったところです。忌たんのないご意見をいただきますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

す。

上森町長

議事に入ります前に能勢町総合教育会議運営要綱第5条第1項の議事録署名委員を指名したいと思えます。議事録署名委員については、島中委員と的場委員を指名します。よろしくお願ひします。

それでは、資料の内容につきまして、事務局より説明をお願ひします。

藤原部長

まず、令和3年1月開催の総合教育会議におきまして、第6次総合計画との整合を図るため、第2次教育大綱を1年間延長するといったご議論を受けて、今般、令和4年度を始期とする大綱を策定しようとするものです。

まず、「1大綱」の位置付けについて、ご説明いたします。

大綱とは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項の規定に基づき、本町の教育、学術及び文化の振興に関する内容を定めるものです。

次に、「2能勢町教育大綱」について、ご説明いたします。

今回の大綱が第3次の教育大綱となります。

今回は、現在策定中の第6次能勢町総合計画(令和4年度～令和13年度)の10年間のまちづくりの計画とするものですが、この内容を踏まえた上で、予算編成権を有する町長と、教育を所管する教育委員会が、教育行政をより円滑に進めていくことを目的に、総合教育会議での協議を経て策定するものです。

なお、この教育大綱の対象期間は、令和4年度から令和6年度までの3年間とし、必要に応じて見直しを行うものです。

「第2基本理念」については、現在策定中の第6次総合計画の将来目標である、「人・地域・地球の健康を守り縁をつなぐ開かれたまち能勢」を受けまして、今後「持続可能な社会の創り手となる人材の育成を目指す」ための基本理念として、「里山未来都市の創造を担う教育の探求」と定めるものです。第2次教育大綱の基本理念として定めた副題である「子どもが創る明るい未来のために」を、本教育大綱においても受け継ぐこととしております。

ちなみに、里山未来都市とは、「暮らしに必要な資源(人材、食料、エネルギー、経済等)を地域で自給し循環する自立的で持続可能なまち」と位置付けるものです。

次に、「第3教育方針」に入ります前に、現在策定しております第6次総合計画の概要につきましてご説明申し上げます。

施策の大綱につきましては、大きく5項目を掲げており、その実現する

ための切り口として、人材育成サイクルを位置付けております。この大綱が今回策定する教育大綱に大きく関わる項目となり、具体的にはシビックプライドを醸成する教育の実施や教育環境の充実等を掲げております。これらを人材育成のための施策テーマとして位置付けているところで、これらを基に教育方針を定めたところです。

方針1 特色ある教育プログラムにより子どもたちの生きる力を育み、シビックプライドの醸成を進めます。

これは、今後、令和4年度からの義務教育学校移行を踏まえて、持続可能な地域社会の創り手を育むために、地域に根差した独自の取組が求められるところです。

方針2 町ぐるみで安全安心な学校づくりを行います。

これにつきましては、今後、定期的に施設点検管理を実施し教育環境の整備に努めるとともに、スクールバスも含めた通学時の安全・安心のための対策の一層の充実などが求められるところです。

方針3 地域資源の活用やICT環境の整備、指導力の向上により質の高い教育環境を整えます。

これにつきましては、今後、学習環境の充実に向けハード・ソフトの両面からより一層の整備を進めるとともに、児童生徒へのきめ細やかな対応に向け、関係機関や社会資源との連携強化が求められるところです。

方針4 子どもや若者が様々な活動を通じて地域住民をはじめとした多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手として成長していくよう支援します。

これにつきましては、今後、児童生徒と地域との関わりをより深めていくための活動や、能勢分校と能勢ささゆり学園との間における連携教育等により、一人ひとりの可能性を引き出していくことが求められるところです。

方針5 能勢の歴史や伝統、文化を通じて地域に対する愛着や豊かな心を育み、保存・継承や活用により地域の資源として新たな価値の創造に努めます。

これにつきましては、今後、「能勢の浄瑠璃」の保存・継承や次世代を担う人材育成に向けた取組を引き続き実施していくとともに、新たな文化の創造にも取り組んでいくことが求められるところです。

参考資料2につきましては、第3期教育振興基本計画の概要は、第2期教育大綱時から変更はありません。計画期間が2018年～2022年となっております。

参考資料3、参考資料4につきましては、総合教育会議設置規則並びに

会議の運営要綱を添付しております。

第6次総合計画ですが、3月15日から4月15日までパブリックコメントを実施しておりますが、先ほどお示しさせていただきました参考資料1の内容につきましては、大きな方向性として変わらないところです。説明は以上です。

上森町長

事務局から説明がありました。1年待っていただいて第6次総合計画と整合を図るということで教育に関する部分を整理して教育大綱としてお示しさせていただいたところです。

ここからは、この大綱(案)につきまして、皆さんから忌たんのないご意見を頂戴できればと思っております。よろしくお願いいたします。

畠中委員

資料の確認をしたいのですが、番号04の資料はないのですか。以前にいただいた資料にはあったと思うのですが。

藤原部長

資料04については、教育分野に直接関係しないため、今回の資料には添付しておりません。

畠中委員

良いことを書いていただいて、このとおりにいけば完全に良い町になって、完全に良い教育になると考えます。シビックプライドについてですが、小中高一貫を念頭に書かれたと思うのですが、今年、中学校から能勢分校に進学した生徒はどれくらいの割合ですか。

寺内次長

28%~29%程度。60人中20人です。

畠中委員

シビックプライドの醸成を進めていくことは絶対に必要なことだと思います。郷土愛を持ってもらいたいのですが、子どもが良い成績をとれば能勢分校には行かせたくないと思う親御さんも少なくなく、町外に出ていかれて、その後は戻られないこともあると思います。計画に書いていただいていることは立派なのですが、現状を考えると非常に不安になります。

藤原部長

総合計画を審議する中でも同様の議論がありました。能勢高校を卒業された方で、大学生になって町外に出て初めて能勢の良さが分かりましたとか、中学校や高校のときには自分が住んでいる地域以外に興味がなく、能勢の良さを発見できなかったとの意見がありました。

総務課では、環境学習において能勢分校と一緒に取組を進めており、大

学の先生も交えて交通問題の課題解決にも取り組んでいます。そうした地域の課題や地域の良さを再認識する学習を通じて、また中学校でも環境学習を受けていただくなど地道な活動を通じて能勢の良さを知ってもらう取組を進めています。

市村委員

シビックプライドという言葉は、私自身聞き慣れない言葉だったのですが、能勢のような小さい町ほど、そのような意識を持っている人が多く、大きい町に住む人より強いのではないかと思います。昔から能勢では自分たちの私財で村に良い学校を作り、良い先生を招へいしてという気持ちで取り組んでこられた歴史があります。自分たちの村という意識が町を良くしたいという思いにつながるのだと思います。そして、その意識は大人も持つことが大切だと思います。能勢分校に行くというのも一つの表れかもしれませんが、それ以外のアプローチもあるのではないかと思います。

上森町長

能勢高校の廃止に関する議論がされた際に、地域の中学生の3割が最低でも進学しなければ分校として存続させる意味がないというのが大阪府教育庁の意向でした。里山留学を実施し地域外の生徒の受け入れなど様々な試みをしておりますが、基本は地域の子どもが進学することだと思います。私自身は、地域の子どもの30%が能勢分校に進学しているという事実は大きなことだと考えています。一方で自分の高校生の頃を思い返しますと、シビックプライドという意識を持ち合わせていなかったように思います。

そういう意味では、近くにいる大人が範を示すことは大切なのだろうと思います。

市村委員

地域資源の活用と書いてあるのですが、これは具体的に何を指すのでしょうか。

藤原部長

人材、エネルギー、里山など能勢町にある人や資源、材料など全てを含めて資源としております。

島中委員

能勢町から人口が流出するが流入しない状況にあります。若者が減り、高齢者ばかりになる。このような状況を放置している行政の姿勢に問題があるのではないのでしょうか。町外から転入される方に重点を置いているように見受けるのですが、私は逆ではないかと思います。町内に住む人が自分の町に誇りを持てる施策や特色を打ち出すことが必要ではないでしょうか。

能勢町の特色とは何だと思われませんか。

藤原部長

地縁・血縁による地域のつながりや地域の団結力というのは能勢の魅力であり特色ではないでしょうか。そして SDG s 未来都市に関する取組についても、こういう絆が深い町だからこそ一緒に取り組めるところは素晴らしいところだと思います。

島中委員

「絆」という点では、これまではあったと思います。それは地域に学校があったときのことで、学校が一つになって、西地域にばかり子どもが偏り東地域は流出してしまっています。情勢のあり方によって地域差が出てしまうのはおかしいのではないかと思います。そして東西に1校ずつあれば、地域の絆は残ったのではないかと思います。

・義務教育学校への移行に関する説明会においても東西地域における保護者の参加率は、西地域が圧倒的に多く東地域は数えるほどだったそうです。

これまでは誘い合って参加する絆がありましたが学校が一つになったことで、特に東地域は絆が薄れてしまったのだと思います。

教育にしても行政運営にしても、同じように地域を支えていかなければ人口が減少し行政運営に支障が生じるのではないのでしょうか。

寺内次長

12月15日に説明会を実施しましたが、全体で25名の参加があり、参加者の割合は東西の人口割合に沿ったもので、東地区が特に少ないというものではありませんでした。

また、学校再編後に地域から子どもがいなくなったとの声は、東地区の方からお伺いすることです。学校としては町の魅力を感じてもらうために積極的に地域に出向いてお話を伺うなどご協力をいただき、シビックプライドの醸成に努めていきたいと考えております。

島中委員

交通対策において、スクールバスを公共交通の一つの手段にする考えがあると聞いています。スクールバスは誰のために何のために導入したのか、よく認識していただきたいと思います。

藤原部長

交通対策につきましては、新たな交通システムを検討する会議の中で、スクールバスを活用できないかという意見もありました。しかし、児童生徒のためのバスであり、それが阻害されるような活用になってはいけないとの考えを背景に、副次的な利用として柔軟に運用することは検討課題としつつ、町としては乗合タクシーを核とする交通システムの実現を目指す

こととしております。

中澤委員

私たちが若い頃は、教職員名簿を見ると町内在住の職員が多かったように記憶していますが、今は少ないように思います。学校の果たす役割が大きいのも事実です。それに教職員の地域に対する理解度が重要だと思います。能勢町が町を挙げてシビックプライドを醸成するという方向性の下に、教職員も一緒になって子どもたちへの語り掛けを行うなど、日常の中で意識を持ってもらう取組が大切ではないかと考えます。

話は少し変わりますが、地域の人たちが集まる機会の中で、私の住む地区の中に若い人たちが何人いるのかという話になります。能勢町としては移住と定住の促進など関係人口を増やすことが重要であり、これらの施策に力を入れることが必要ではないかと思えます。

上森町長

定住人口を増やす施策については、能勢町で生まれ育った人に帰ってきてもらうのか、それ以外の人に移り住んでもらうのかによって取るべき手法が違ってきます。地元の住民さんの意識としては、どのように考えておられるのでしょうか。

中澤委員

シビックプライドを醸成して地元に戻る子どもを作ることが大切であると思いますが、それだけでは難しいと思います。例えば農業を営んでいる方で自分の田畑を子どもに継がそうとする方は少ないと思います。逆に農業を目指して能勢に入って来られる方が多くいらっしゃいます。そのような方を対象とした町営住宅があれば、もっと町内への移住者も増えるのではないかと思います。地域の伝統を残すことも大切ですが、積極的に能勢に来る人を受け入れることは能勢町が存続するために越えていくべき壁なのではないかと思えます。

藤原部長

若手農業者で町外から来られる方は非常に多くいらっしゃいます。農業者で組織する4Hクラブですが10年程前までは加入者が10名程でしたが、今は37名～38名となっています。そして、その方の紹介で新たに町内へ移住される方もあり、地域の消防団活動などにも参加されています。町としては4Hクラブを支援しつつ、地域の不動産事業者に紹介いただきお住いの場所を探していただいております。

中澤委員

私の住む地域が消防操法訓練大会への出場が決まったとき、メンバーの大半を新規就農者の方に担っていただきありがたいと感じました。

上森町長

定住促進については課題としてあります。低価格で町営住宅を提供したとしても、町内の戸建て住宅でも安価で借りられる家もあると思います。

この問題に関して、失礼な言い方になりますが、あえて申し上げるならば、親も無責任だと思います。自分の子どもには町外に出ることを許しておきながら、一方で町外からの移住者を求める。親の無責任さが子どもに伝ばすると思います。

仕事の都合など色々な事情はあると思いますが、私たちの親世代は「長男はここに住め」と言ってきたと思いますが、私も子どもには言っておりません。中澤委員はいかかですか。

中澤委員

おっしゃるとおりです。私も長男で、小さい頃から祖母にそのように言われておりましたので、能勢に帰って来ないといけないと思っておりました。

上森町長

究極的にはそこではないかと思います。しかし今の時代、なかなか子どもに言えません。そのような中でシビックプライドを醸成することは難しいものがあると思います。

話は少しそれますが、能勢町にある 800 ヘクタールの農地をどのように守っていくかということは大きな課題です。稲作には多くの高額な機械が必要になります。我々は農業外収入でこれらを賄ってきましたが、果たして子どもたちに同じことをするように言えるか。私は難しいと思うのです。

加堂教育長

町外から転入される人を排除する排他的な考え方について、昔に比べれば少なくなっているものの、多少残っているのかもしれない。

私の住む地域で、以前、祭りの際に神輿の担ぎ手が不足して困ったことがありました。ある方の紹介で町外の新興住宅地から応援に来ていただき、華やかな祭りになって良かったのですが、一方で誰のための祭りなのかという虚無感も覚え、次の年から外部の方を呼ぶのは少し考えようという話になりました。

排他的という話とは少し違う部分はあるのですが、潜在的に町内の人、外から越してきた人という区別の意識があり、転入された方をどのように迎えるかという住民の気持ちの醸成を図ることも大切だと感じます。

上森町長

消防団や地域の行事が若い人たちにとって負担になっていると思います。若い人の中には、これらの付き合いが嫌で能勢には住まない方もいらっしゃると思います。今住んでいる人たちの意識を変えていかなければ町



外に出ている人が帰ってくるということは難しいのではないかと思います。

能勢は農地など土地の所有・管理という側面があるため、大変難しい問題なのですが、この部分をクリアしなければ人の流動化は難しいと思います。

加堂教育長 中澤委員の発言にありましたが、町内在住の教員が少ないのは事実だと思います。

上森町長 教員の人数自体が減っているのでしょうか。

加堂教育長 一概には言えないと思います。町内在住の方で近隣市の学校に勤務されている方もいらっしゃいます。

上森町長 地元で働くことを敬遠されておられるのでしょうか。

加堂教育長 本町は1校に再編したため、自分の子どもが通う学校に自分が勤務することを避けられる傾向があるのではないかと思います。

小・中学生の子どもを持つ若い先生ほど、町内に戻りにくくなったのかもしれない。

畠中委員 総合計画を策定するに当たり、町がどのように人口を維持させるのか、考えることが一番重要になると思います。人口が減少し通学する子どもが減ってしまうと学校を存続させること自体が難しくなってしまいます。

能勢分校についても、外部からの生徒も大切ですが、町内から進学する生徒を増やす、そして能勢町だけでなく豊能町にも努力していただき、地域の学校として存続させることが重要だと思います。

その取組が継続する中で、有能な人材が地域に残ってくれることを期待したいと思います。

上森町長 豊能町とも協力していく必要があると考えています。町内から3割程の生徒が能勢分校に進学しており、この進学率はキープしたいし、もっと増えれば良いと思っています。

他に何かご意見はありませんか

加堂教育長	お示しいただいている5項目については、教育大綱にふさわしい包括的な内容であると思います。令和4年度から義務教育学校としてスタートしますが、「もっと地域とともに・もっと新しい学びへ・もっと強いチームに」のスローガンとも合致しております。地域の皆さんにお世話になるだけでなく、学校の方から地域に出向いて地域の中で活動するということ意識していきたいと思います。
上森町長	色々なご意見をいただいたところですが、お示しした5点を教育大綱とさせていただきますようお願いいたします。
全員	異議なし
上森町長	ありがとうございます。教育委員会におかれましても、今後詳細の部分についてご検討いただければと思います。 また、今後とも総合教育会議の中でも意見交換を行っていきたく思っております。よろしくお願いいたします。
藤原部長	教育大綱をお認めいただきましたので、周知に努めてまいります。
上森町長	それでは、令和4年第1回能勢町総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

(閉会 午後2時10分)

上記は、会議の経過(要旨)を記したものであり、これを証するためここに署名する。

委	員	高橋 裕身
委	員	的場 麻子